

(別記)

令和元年度滝川市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当市は、石狩川と空知川が合流する道央空知の中央部に位置し、耕地面積は5,058haであり、米を基幹として小麦やそば、なたね、大豆、雑穀などの畑作物を組み合わせるとともに、高収益が期待できるトマト・花きの施設園芸、和牛繁殖などを導入した水田複合経営など、多様な農業経営が展開されている。

しかし、近年は米をはじめとした農産物価格の低迷や生産コストの増加に伴う農業所得の減少のほか、農業従事者の高齢化や農家戸数の減少、経営耕地の分散化、転作田における麦の連作障害などの数多くの課題を抱えている。

これら課題解決に向けて、農地中間管理機構の事業を推進し、担い手への農地集積を図るとともに、基幹作物である米と転作作物による複合経営化の推進などを通して、農業経営基盤の更なる強化と水田のフル活用による地域農業の活性化を図る必要がある。

そのためには、これまで以上に各関係団体が一体となって各品目の生産振興に取り組むとともに、農業者への制度の更なる浸透を図り、水田フル活用ビジョンの達成に向けて、積極的な農業施策の推進と需要に応じた作物の生産振興を図ることが重要である。

2 作物ごとの取組方針等

市内の約3,600ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本とし、担い手による水田複合経営を推進するため、麦や大豆、なたねなどの生産振興を図ることとする。

特に、水田複合経営については、特定の農産物価格下落にも耐えうる農業経営基盤の確保を図るため、担い手による「米＋その他作物」の複合経営化を推進し、将来を見据えた地域農業の活性化を目指す。

(1) 主食用米

米の作柄は、道内の中でも安定しており、良食味・高品質米の安定的な生産が可能な地域であることから、今後とも減農薬米等の取組の拡大により、付加価値の高い、需要に応じた売れる米づくりを一層推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

水田機能の維持・確保を図るため、水張り転作の一作物として取り組むとともに、直播栽培等省力化技術の導入など、生産コスト低減に向けた取組を推進する。

イ 米粉用米

現状では作付の予定はない。

ウ 新市場開拓用米

業務用米の拡大による輸出を推進するため、輸出用米の作付を拡大する。

エ WCS用稲

現状では作付の予定はない。

オ 加工用米

多様な需要に対応するため、安定生産と供給に取り組む。

カ 備蓄米

需要に応じた米生産を図るため、安定生産と供給に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

畑作物輪作計画に基づく適正な輪作体系の維持・確立や、低コストで持続可能な生産体制を確保、大型機械の稼働率向上、圃場の排水改良等の基盤整備を進め、麦、大豆の作付面積及び単収の向上を目指すとともに、水田複合経営の対象作物として推進することで、農業経営基盤の強化を図る。

また、飼料作物については、地域の需要量に応じた安定生産・安定供給を目指す。

(4) そば、なたね

そばについては、収量向上に向けた取組をさらに推進し、需要に応じた生産を図る。

地域の振興作物として位置づけているなたねについては、産地としての地位確立を目指し、収量向上に向けた取組を推進するとともに、輪作体系の維持による生産性向上の取組を推進し、中長期的な作付面積の維持・拡大を目指す。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

高収益作物である花きや薬草と組み合わせた水田複合経営への誘導を図るとともに、地域振興作物として位置づけることで、作付面積の拡大を目指す。

また、近年需要が拡大しているえごまやきびなどの雑穀の生産振興を図ることで、作付面積の拡大を図る。

(6) 畑地化の推進

地域における効率的な土地利用にも配慮しつつ、畑作物の本作化に取り組む。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	2,042.5	2,086.3	2,020.0
飼料用米	60.5	73.0	60.0
米粉用米	0.4	0.0	1.0
新市場開拓用米	3.0	7.0	10.0
WCS用稲	5.3	0.0	5.0
加工用米	8.0	9.7	40.0
備蓄米	0.0	7.0	0.0
麦	520.3	555.6	630.0
大豆	161.0	142.8	180.0
飼料作物	11.1	11.6	6.0
そば	410.6	379.5	320.0
なたね	101.6	95.7	120.0
その他地域振興作物	127.6	106.6	166.9
野菜	17.5	21.3	22.2
花き・花木	1.7	2.2	2.5
雑穀	42.4	40.0	43.0
薬用作物	0.2	0.5	0.7
小豆	0.6	1.0	1.0
地力増進作物	65.1	41.6	97.5

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度（実績）	目標値
1	なたね	ブランド作物助成	作付面積	(2018年度) 101.6ha	(2020年度) 120.0ha
2	なたね	ブランド力向上助成	作付面積 連作率	(2018年度) 101.6ha (2018年度) 2.2%	(2020年度) 120.0ha (2020年度) 0%
3	麦、大豆、そば	担い手加算	作付面積 地域販売金額	(2018年度) 1,091.9ha (2018年度) 69百万円	(2020年度) 1,130.0ha (2020年度) 79百万円
4	加工用米、飼料用米、新市場 開拓用米、麦、大豆、なたね、 そば、雑穀、薬用作物	GPSガイドシステム導入 推進助成	作付面積 取組実施率	(2018年度) 1,307.7ha (2018年度) 12.0%	(2020年度) 1,403.7ha (2020年度) 20.0%
5	加工用米、飼料用米、新市場 開拓用米、麦、大豆、なたね、 そば、雑穀	自動操舵補助装置導 入推進助成	作付面積 取組実施率	(2018年度) 1,303.3ha (2018年度) 0.0%	(2020年度) 1,430.0ha (2020年度) 1.0%
6	トマト	トマト作付助成	作付面積	(2018年度) 3.4ha	(2020年度) 4.2ha
7	花き	花き作付助成	作付面積	(2018年度) 1.7ha	(2020年度) 2.5ha
8	そば	そば作付助成	作付面積	(2018年度) 410.6ha	(2020年度) 320.0ha
9	そば	そば輪作維持助成	作付面積	(2018年度) 410.6ha	(2020年度) 320.0ha
10	アスパラガス	アスパラガス作付助成	作付面積	(2018年度) 3.6ha	(2020年度) 5.5ha
11	雑穀（あわ、いなきび、エ ゴマ、たかきび、ひえ）	雑穀作付助成	作付面積	(2018年度) 42.4ha	(2020年度) 43.0ha
12	小豆	小豆作付助成	作付面積 単収	(2018年度) 0.6ha (2018年度) 90.9kg/10a	(2020年度) 1.0ha (2020年度) 150kg/10a
13	薬用作物（トウキ、オウギ）	薬用作物作付助成	作付面積	(2018年度) 0.2ha	(2020年度) 0.7ha
14	その他野菜等	野菜作付助成	作付面積	(2018年度) 10.5ha	(2020年度) 12.5ha
15	地力増進作物	地力増進助成	作付面積	(2018年度) 65.1ha	(2019年度) 41.6ha
16	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組 拡大助成	作付面積	(2018年度) 3.0ha	(2020年度) 10.0ha
17	—	畑地化助成	取組面積	(2018年度) 0.0ha	(2020年度) 2.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。